

# 言葉にできない 自分を、あなたを、 歌で解き放ちたい。 関大発「ギタ女」 メジャーデビュー。

シンガーソングライター

はなふさ まゆ

## 花房 真優さん

関西大学 経済学部経済学科  
2018年卒

1995年生まれ、大阪府出身

公立高から関大現役入学後ライブ活動をスタート、

2017年よりBlood Orange Records所属。

数々の音楽コンテスト入賞、有名TV番組のエンディング

テーマ起用、東京・名古屋ライブ拡大と、

実力派の“ギタ女”評価を確立。

2019年、初のフルアルバムをリリースし850人キャパの

「大阪BIGCAT」でワンマンライブ。2020年9月、

徳間ジャパンからメジャーデビュー。



パワフルに繊細に、魅了する歌声。関大経済学部在学中から「オールラウンダーな本格派“ギタ女”」として注目を集めてきたシンガーソングライター・花房真優さんが、2020年9月、徳間ジャパンからメジャーデビュー。力強く心に語りかけてくるその歌の原点は、意外にも「自分のことを言葉ではうまく伝えられない苦しさ」だといいます。自分の慰めだった歌が「人に寄り添い、背中を押せる歌」へと変わっていった関大時代の音楽活動、そしてアーティストとしてのこれからの思いを伺いました。

2020年9月、おかげさまでメジャーデビューしました。デビューアルバムは「call for love」というタイトルで「愛を叫ぶ」という意味です。1曲1曲違う主人公に、愛というテーマを通したアルバムです。私が小さい頃から現在に至るまで、いろんな方にもらってきた愛の形----家族愛、恋愛、友情などに、少しでも共感していただけたらと思います。

2020年はメジャーへの準備でワクワクのはずが、前半はコロナの影響で一切活動ができなくなってしまっただけで、でも夏からは少しずつライブを再開し、ビデオ撮影や挨拶回りなどで忙しくしています。最近は1日に9ヶ所回るようなハードさで、ランチがいつもの倍くらいおいしいですね(笑)。

「おかえり」という関大東京センターのテーマ曲があって、実は私が作らせていただきました。センターの活動コンセプトから湧いたインスピレーションをそのまま歌にしました。普段は自分で一から全てを作っていくので、曲のテーマをいただいて作るのは新鮮な体験でした。

大学では2回生まで普通の一学生として音楽活動を続けていましたが、3回生で事務所に所属したのを機にアーティストとして正式にご報告しました。以来、関西大学の公的イベントや校友会関係、広報などいろんな場にお声がけいただいています。卒業しても応援の温かさは変わらず、すごく心の支えになっています。

# 大きな世界の「たかが花房真優」なんてイヤ いつかは武道館、願いではなく決めて進む

メジャーデビューに向けて、東京でのお仕事が増えました。素直に「人が多い!」というのがいまだに一番の印象ですね。大阪人からみたら、東京の規模がおかしい(笑)。どこでも人が溢れかえっていて1つ1つがデカイ!音楽のアーティストさんもすごい数です。月に1回の東京ライブと、渋谷クロスFMの「SSW Song Box」でパーソナリティとしてレギュラー出演を始めて2年くらいになるんですが、場をいただくほど「自分を見てもらう」のがむずかしいなと感じています。大阪だと、ラジオやライブで接触を重ねたら「あ、花房真優知ってる」「ライブに行こか」という感じなんですけど、東京だと星の数ほどライブもメディアもある中の「たかが花房真優」なんだ、ってわかるんですね。

音楽活動をしてきて一番うれしかったのが「メジャーデビュー

だよ!おめでとう!」って聞いた瞬間で、それはもう爆発的にうれしくて声が出ないほどでした。でも、今は「アーティスト性を磨いてもっと大きくならないと花房真優は見向きもされないぞ!」って引き締まった気持ちです。

特にこの3年半、事務所に入ってから、音楽一筋、ぞっこんで向き合おうと覚悟を決めて、よそ見はしていません。アーティスト性を磨く努力とはつながらないかもしれないですけど「立ちたいステージをイメージする」ことを続けています。武道館に立ちたいんです。ずっと毎ステージ、毎日、念じています。2018年のミニアルバム「1080度」のジャケットは、関大の凱風館にある武道場で撮影したんですが、実はそういう思いからです。



## 言いたいのはそうじゃない…もどかしく苦しい記憶 初めて褒められた 初めて誰かを勇気づけた「私の歌」

小学生の時はもう「歌う人」をめざしていました。5年生の時、YUIさんの「タイヨウのうた」という映画のマネっこで父のギターを触り始めました。私は勉強も運動も取り柄がない「ザ・普通」の子で、自分の思いを言葉にすることも不得意で苦しかった。そのかわりに歌を作ったら、それが唯一、両親や兄弟に褒めてもらえたんです。それが今の全てにつながりました。

中学から、自分の言えない言葉をただ書きためる感じで250曲以上作ってきました。初めて人前で歌ったのは高3の学園祭です。周りの子たちから、私が私のために歌ってきたオリジナル曲に「自分も励まされる」と言われたんです。その時「人のために歌いたい」という気持ちが生まれました。「歌手にな

るために高校卒業後は東京に行こう」と考えるようになりました。でも高3では、ひとりであてもなく東京へ行く決心が固まらず…。本当に自分が歌で生きていきたいか、大学の4年間で見つめていこうと思って、関大に進学しました。経済学部を選んだのは、地元の高槻キャンパスより、大きな千里山キャンパスが楽しそうだったからです(笑)。

大学からライブ活動を始めて、人のために歌いたいという思いがさらに膨らんでいきました。「やっぱり自分はシンガーソングライターになりたいんだ」と確認できた。でも音楽活動を始めたのも遅いし、本当に必死でがんばらないと希望はないということもわかってきました。

# call for love

## 2020年9月 ON SALE

### 花房真優、徳間ジャパンからメジャーデビュー



ファースト  
ミニアルバム  
「call for love」  
(TKCA-74899)



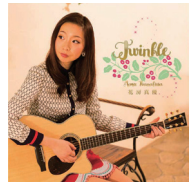
2019年 フルアルバム  
「peace sign」



2018年 ミニアルバム  
「1080度」



2017年 シングル  
「扉ひらけば」



2017年 マキシシングル  
「Twinkle」



2017年 シングル  
「命はじまり」

**オフィシャルCDショップ**  
<https://mayuofficial.buysshop.jp>

## 花房さんのある1日

- 7:00 起床～朝食
  - 基本はヨーグルトとパン。
  - しじみの味噌汁にもハマリ中。
- 7:20 ツイート
  - ファンへの「おはよう」発信は毎日欠かさない。
- 9:00 新幹線で東京へ
  - 現在拠点は大阪の実家。
  - ラジオのレギュラー、ライブなどで月に数回上京。
- 13:30 販促企画ミーティング
  - 事務所のスタッフと徳間ジャパンへ。
  - 課題は「コロナ下でできること」
- 14:30 ライブハウスへ挨拶回り
  - ポスターを抱え都内で5軒。
  - 5分滞在でも数時間かかる。
- 18:30 ミュージックビデオ打合わせ
  - 日帰りのため東京駅内であわただしく。
- 19:40 帰りの新幹線でブログ
  - 普段は寝る前に書くが、今日はお弁当を食べながら。
  - 振り返り、糧として毎日投稿を心がける。
- 23:00 帰宅・入浴
  - 喉を休めるため家族との会話はジェスチャーに。
- 24:00 歌のアイデア降臨！
  - 愛用のメモ帳にフレーズの書きとめ成功。
- 25:00 就寝

## 花房真優の最新情報をチェック！

花房真優オフィシャルHP <http://87mayu.com>

ツイッター：花房真優 (@hanafusamayu) <https://twitter.com/hanafusamayu>

ブログ「毎日おかげさまの花ブロ」<https://ameblo.jp/87mayukke>

## 自己流でしかない音楽活動で、何の壁にぶち当たってたの？ 笑顔解禁！自分を初めて楽しんだ学祭ステージ

ひとりで行き詰まっていた音楽活動が、大学3回生の時ようやく理想の方向に流れ出しました。出演したライブハウスで今の熱い事務所に声をかけてもらったんです。「やっと自分ひとりじゃなく誰かと一緒に走れる！」ってうれしかったです。3年生ってみんなしっかり就活してる時期ですよ。なのに私だけ、シンガーソングライターという「行きたい進路」があるのに活動の仕方も見えない。そんなタイミングでした。

そんな不安が歌にも出ていたんでしょうね。事務所の最初のアドバイスは「なぜそんな面白くなさそうに歌うの？もっとステージを楽しんでみたら」でした。元々ネガティブな性格なのもあって、楽しい曲でもずっと暗い顔で歌っていたんです（笑）。しかもまだまだ人前が嫌いで…。「そうか、自分自身が楽しくないと伝わらないよね」って納得しました。

まず「口角を上げる」ことから始めました。小さい頃、母に「口角を上げていると、幸せが舞い込んでくるよ」って言われてたのを思い出したんです。この時からメジャーに来た今も、自分をポジティブに持っていく・励ます意味で、ずっと実行しています。

そして3、4年生で出演した関大の学祭のステージ【K.U.ロックフィーバー】で、今の「花房真優」ができあがりました。関大という安心してはじけられるホームで、本当に楽しんで自分をポジティブに解放できたんです。

同じ頃「現役関大生アーティスト」という大学の推しで、東京の校友会関係のいろんな場でも歌いました。適度に緊張感のあるアウェーでいて、温かいステージで。東京へのハードルが下ががり、メジャーで歌う自分をリアルに描けるようになりました。

# 表現者として生きるなら、自信過剰くらいでちょうどいい！ あなたがあなたの「最大の理解者」でいてあげて

星の数ほど歌手がいるメジャーに出ていくにあたって、私の価値って何?と思うたび「言葉にできない思いや愛を、歌で伝える」という原点に立ち返ります。そんな自分をブレずに信じて今があるし、これからも信じるだけです。

これから自己表現を仕事にしたいと思っている学生さんもいるでしょう。そんな人に今、私から何か言えるとしたら、やっぱり「自分自身を信じること」に尽きます。

私は元はネガティブなタイプでしたけど、不思議とどこかで「自分はできるんじゃないか」という思いがあって。時には「自信過剰でいいじゃない!」という勢いで、徹底的に自分を褒める瞬間はあったかな。大変なことがたくさんあっても「支えてくれる人が、自分がここにいる、弱気にならないぞ」と。だからこそ大学入学後、シンガーソングライターになる道がわからなくても音楽をやめずにいられて、今の事務

所のような「行くべき場」にも出会えたんだと思っています。表現を仕事にする人が、自分に客観的で厳しくあるのはいいことです。でも、何よりも主観的に「自分を信じること」が出発点だし、それだけはやめないでほしいな、と思います。



## 「あなたにとって関西大学とは？」

私にとって、たくさんの人との出会いをくれ、つないでくれる場所です。高卒でひとりで東京に出ていると絶対なかった出会いで、今がありますから。デビューした事務所とも、関西大学の4年間で自分をたくさん見つめ直す時間があったからこそ出会えたと思っています。

関大つながりでライブの場もたくさんいただきました。関大関係の方って普通のお客さんと空気が全然違うんです!皆さん本当に温かい。どんなライブも最初はアウェー感があるものだけど、いきなり「関大なら仲間だよ!」っていう感じ。勉強しながらやりがいもたくさん感じさせてもらいまし

た。まさかの学長もライブを見てくださったり。OBOGへの支援の情熱にも本当に感謝しています。

「関大はモテる」という噂についてですけど…絶対モテないですよ。少なくとも私には思い当たる節がございません(笑)。学内で「花房さんですよね」と話しかけられるのも、一学生として「ちょっと、ねえ君!」って声かけられることもなかったです。ただ友だちは結構他校の人と恋愛をしていたので、モテるイメージはあるのかな?

多分、私は歩くのが速すぎたんでしょうか(笑)。

(撮影・取材：関西大学東京センターにて)

## KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介します特集です。

● 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをする事。時には取材にも参加します。

ポクも  
デビューしたら  
手裏剣ケース  
ほしいねん

何デビュー?



デビューのお祝いに  
ギターケースを  
プレゼントされた  
花房さん



## 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式 Twitter



公式 Facebook



LINE スタンプ